

第 16 回 放出源の有効高さ評価分科会
議事録

1. 日 時 2025 年 12 月 9 日（金）13:30～15:00

2. 場 所 Web 会議開催

3. 出席者（敬称略，あいうえお順） 定員 13 名中，9 名出席

委員：荒木（北陸），井上（気象協会），上村（関電），近藤（気象協会），佐々木（三菱重工），
佐田（電中研），神野（原電，記），田中（東電），中山（JAEA）

常時参加者：千葉（東電），箕浦（原電）

4. 議 題

- (1) 「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準」の改定に係る意見募集結果の共有
- (2) 2025 年度 標準策定 5 か年計画について（審議）
- (3) 用語辞典データベースの見直しに係る依頼について
- (4) その他

5. 配布資料

資料 1-1：（委員集約版）風洞実験実施基準の改定に関する意見募集

資料 1-2：（事業者集約）風洞実験実施基準の改定に関する意見募集

資料 1-3：（中山委員）風洞実験実施基準改定要否に係る意見について

資料 2：2026 年度 基盤応用・廃炉技術専門部会 標準策定 5 か年計画（案）

資料 3-1：ATC68-6-1～2_用語辞典確認プロセス，データベース

資料 3-2：2025-3-3-2_標準委員会・用語辞典データベース

資料 3-3：（有効高さ分科会コメント案）標準委員会・用語辞典データベース

6. 議 事

- (1) 「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準」の改定に係る意見募集結果の共有
 - ・本年度が当標準の改定要否の判断を行う時期であることから，委員及び事業者に対し改定要否に係る意見募集を行った。幹事より資料 1-1～1-3 に基づき委員及び事業者から意見募集の結果を共有し，意見交換を実施した。
 - ・2019 年度の改定において多くの課題解決を実施しており，技術的内容に係る意見は少なく，記載の適正化に係る意見が多い状況であった。

- ・附属書の内容の充実に関する意見はあったものの標準へ反映可能な文献等の情報は無い。
- ・事業者においても現状の実施基準の使用において喫緊の課題はなかった。
- ・今後、事業者が実施する数値モデル実用化に向けた検討の中から、標準へ反映可能な知見がないかも注視していく必要があると考えられる。

(2) 2025年度 標準策定5か年計画について（審議）

- ・(1)の議論を踏まえ、喫緊に解決すべき技術的課題は無く、具体的なスケジュールを5か年計画書の中に示すことは困難であることから、改定要否の判断時期を2030年度末に設定することが了承された。
- ・2030年度までにおいても、技術的な情報の収集や事業者の状況について注視していくなど、今後の分科会のスタンスについては、分科会事務局にて整理し委員に確認を依頼する。

(3) 用語辞典データベースの見直しに係る依頼について

- ・幹事から用語辞典データベースの見直し依頼の内容について共有した。
- ・当分科会の所掌する学会標準に係る記載について、資料3-3に記載の適正化が必要と考えられる点を整理した。各委員に確認し、コメント反映のうえ報告することとした。

(4) その他

- ・資料1-3について議論を行った。資料1-3に示されるような大気拡散評価に係る課題は、委員各位が認識しているが、具体的に何をどう取り組めばよいか判然としていない状況である。
- ・新しい技術については、基礎研究、実用化のための研究、標準等の改定、と従前の手法との連続性を考慮しながら進めていくことで事業者が活用できるものであり、まずは学識経験者による知見の整理を行うのが良いと考えられる。
- ・大気拡散評価に関する知見の整理や学識経験者の知見を事業者と共有するような機会を検討する。

以上